

目的 女子衣料の中でも、スカートに代表される、ウエストで締めて着用する衣服の着心地を知るために、ウエストベルト着用時に生じる圧値の測定とその官能評価を行った。

方法 ウエストベルトの長さはジャストフィット(perfect fit)時を基準(締め率0.0%)とし、それより2.5%、5.0%と減少させた。その時のウエストベルト圧を、前回報告した液圧平衡方式により測定し、同時に着用感も聞き取り調査した。さらに、ジャストフィットの条件を求めるために、これに影響を及ぼすと思われる諸項目(ジャストフィット時のベルトの長さ、皮下脂肪厚、皮下脂肪量、各測定部位の圧値と曲率半径)を測定し、各項目間の相関関係を求めた。

結果 締め率5.0%における静立時のウエストベルト圧は、平均 $17.5 \pm 2.1$  mmHgであった。この値はブラジャーやガードル着用時には、通常、快適と申告される値であった。それにもかかわらず、被験者からは不快の申告があった。そこで、この申告に基づき動作時の圧値を測定したところ、ブラジャーやガードル着用時にも不快と申告される、35 mmHgを越える圧値が計測された。このことから、被験者はウエストベルト着用時に既に動きの際の圧値を予想して、着用感を判断していると考えられる。ジャストフィットの結果は次の通りであった。1)きつめに締めるのを好む被験者ほど、身体の腹側前面ら側面にかけて測定されたウエストベルト圧は高かった。2)各測定部位(5点)の圧値間では、背側の測定部位(2点)から得られた圧値間より、腹側前面から側面の測定部位(3点)から得られた圧値間で高い相関が見られた。さらに、圧値の大きさと不快感の強さとは良く対応した。以上の結果から、液圧平衡方式で測定した衣服圧を指標として衣服の着用感を評価できることがわかった。